

## ● ヒアリングの実施方法

対 象	ヒアリング方法	報告時期
個 人	<ul style="list-style-type: none"><li>メールで依頼し、電話にてヒアリング実施</li></ul>	第5回企画検討会で報告
組 織	<ul style="list-style-type: none"><li>電話にてお願いし、対象組織に出向いてヒアリング実施</li></ul>	第5回企画検討会で報告

## ● 個人へのヒアリング

質問	ヒアリング対象	ヒアリングの視点
Q3.自身の変化	とても良い方向で変化した44名のうち、多様な意見を引き出せるように、回答内容を勘案して選定した20名程度	変化を起こした・促進した要因は何か？  <回答例> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自信がついて、首長に対しても意見を言えるようになった</li> <li>• 研修資料や得たことを部署内で共有したことで、組織の意識が向上した</li> <li>• 自信が講師となって研修等を行うようになった</li> </ul>
	特に変化なしの23名	変化を阻害した要因・原因は何か？  <回答例> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 組織からの指示で研修に参加しているだけ(意識低い)</li> <li>• 組織の受講者活用の意識が低い</li> </ul>
Q4.周囲との関係の変化	とても良い方向で変化した15名	変化を起こした・促進した要因は何か？  <回答例> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 知識等を得ることで、上司が何を求めているのか理解できるようになった</li> <li>• 知識等を得ることで、アドバイスができるようになった</li> <li>• 知識等を得ることで、発言等に説得力がでた</li> <li>• 研修で得たことを活かし、他機関を巻き込む対策を実施するようになった</li> <li>• 他機関の様子などを知ることで、協力して課題解決に取り組むことに気付いた</li> <li>• 研修を受講したことにより関係機関からの信用が得られ、相談されることが増えた</li> <li>• 顔の見える関係の重要性に気付き、積極的に活用するようになった</li> <li>• 上司も受講したことで、同じ認識で業務を取り組めるようになった</li> </ul>
	自身はとても変化したが、周囲との関係は特に変化しなかった13名	変化を阻害した要因・原因は何か？  <回答例> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修で学んだことを同僚に移転する必要を思ってもいない</li> <li>• 組織の受講者活用の意識が低い</li> </ul>

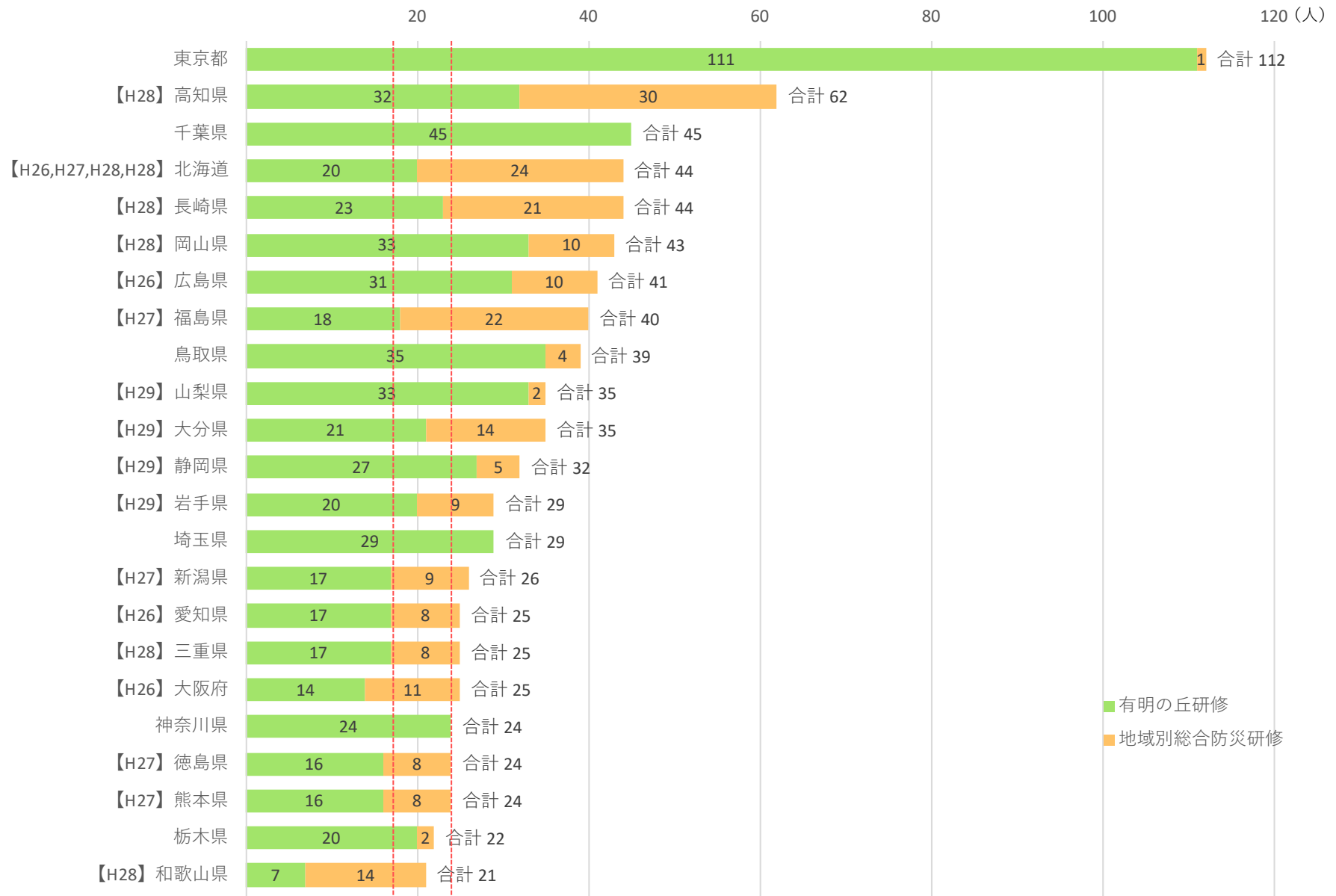
## ● 組織へのヒアリング

質問	ヒアリング対象	ヒアリングの視点
過去の 研修受講 実績	<p>◆ <u>過去の修了コース、修了者数が多い自治体</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 鳥取県（35コース、32名、修了者数2位）</li> <li>• 広島市（60コース、29名、コース数 1位、修了者数 1位）</li> <li>• 草加市（44コース、25名、コース数 2位、修了者数 2位）</li> <li>• 大田区（41コース、22名、コース数 4位、修了者数 4位）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市としての人材育成の具体的な考え方、方針、計画等は？</li> <li>• 防災スペシャリスト養成研修（有明の丘／地域別総合防災研修）の人材育成における位置づけは？</li> <li>• 組織として変化を起こした内容、変化を促進した要因と考えられるものは？</li> <li>• 災害対応・応援を実施した場合、研修がもたらした良い影響、効果などはあるか？</li> <li>• 人材育成に係る現在の課題は？</li> <li>• 防災スペシャリスト養成研修への要望等</li> </ul> <p>&lt;回答例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人材育成の考え方・方針がある</li> <li>✓ 人材育成計画などがある</li> <li>✓ 首長・幹部の防災に係る人材育成に対する意識が高い</li> <li>✓ 研修を受講させる意図・目標が明確、組織に浸透している</li> <li>✓ 研修を受講した結果、災害に即した本部運営訓練や研修を行うようになり、災害対応能力が向上。実災害でも円滑に対応できた</li> <li>✓ 受講者に目的をもって研修を受講させている</li> </ul>
	<p>◆ <u>特徴のある自治体</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 岡山県（33コース、20名、コース数 6位、修了者数5位） ※平成30年7月豪雨で被災している</li> <li>• 川崎市（29コース、20名、コース数 9位、修了者数6位） ※1人1コース受講が多く、コースをバランスよく受講</li> <li>• 藤沢市（25コース、22名、コース数12位、修了者数4位） ※1人1コース受講が多く、個別分野のコースの受講が多い</li> <li>• 鴻巣市（22コース、8名、コース15位、修了者数 21位） ※1人で2～4コース受講</li> </ul>	
アンケート 集計結果 より	アンケートの集計結果の「災害対応業務・応援業務の経験の有無」と「研修受講による組織全体の変化」の回答を組み合わせ、自由記述の内容を基にヒアリング対象をバランスよく選定する。	

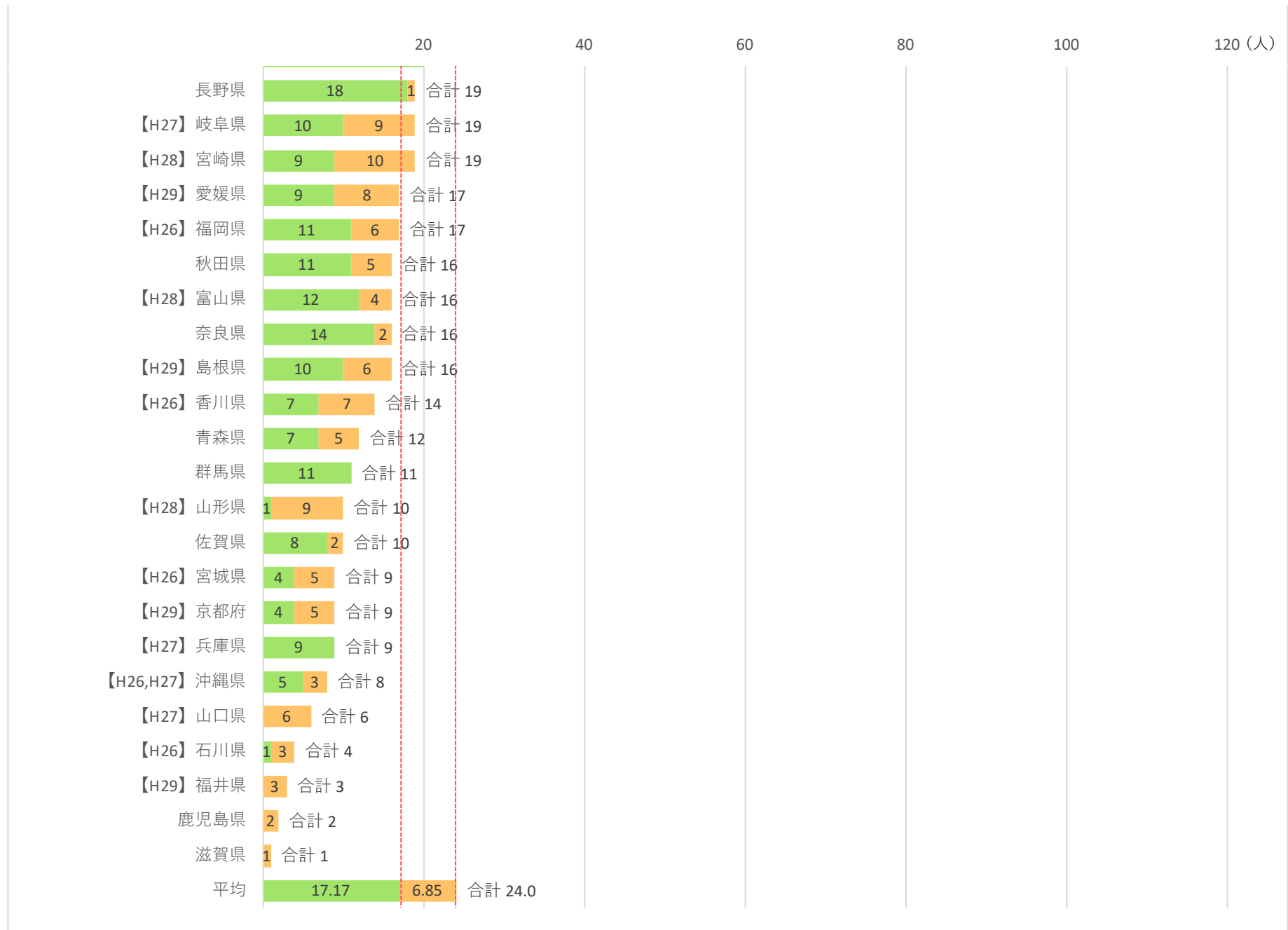
# 【参考】 <都道府県> 過去4年間の修了者のべ人数(都道府県職員のみ) 1位~23位

※ 【】内は、地域別総合防災研修の開催年度

都道府県職員 修了者数 合計 1,129人  
 全国平均 24.0人



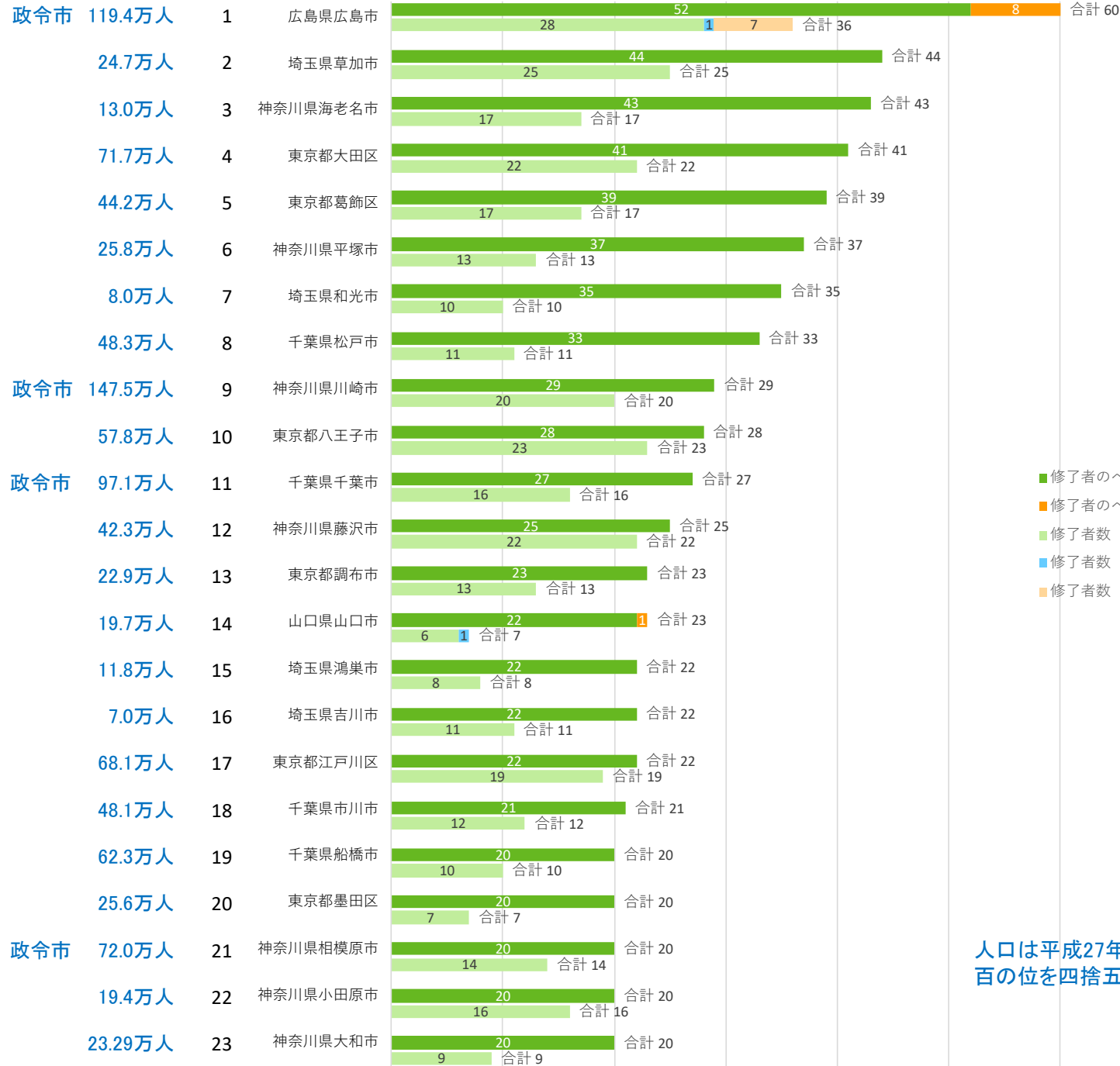
## <都道府県> 過去4年間の修了者のべ人数(都道府県職員のみ) 24位~47位





# <市町村> 過去4年間の修了者のべ人数 1位~20位

(人)



人口は平成27年国勢調査(総務省統計局)より百の位を四捨五入して表示







# <市町村> 受講者ごとの有明の丘研修受講コース一覧 20位

● :OJT

■ :地域別も受講している者

政令市 72.0万人

## 21.神奈川県相模原市

修了者のべ人数 有明の丘：20人 地域別：0人

◎総合監理																			0	
◎人材育成																			1	
◎対策立案																			2	
◎指揮統制																			1	
◎復旧・復興																			0	
◎被災者支援																			2	
◎応急活動・資源管理																			2	
◎警備避難																			4	
◎災害への備え																			3	
◎防災意識																			5	
修了者通し番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

19.4万人

## 22.神奈川県小田原市

修了者のべ人数 有明の丘：20人 地域別：0人

◎総合監理																				3
◎人材育成																				1
◎対策立案																				3
◎指揮統制																				4
◎復旧・復興																				7
◎被災者支援																				1
◎応急活動・資源管理																				3
◎警備避難																				0
◎災害への備え																				3
◎防災意識																				0
修了者通し番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

23.29万人

## 23.神奈川県大和市

修了者のべ人数 有明の丘：20人 地域別：0人

◎総合監理																				1
◎人材育成																				2
◎対策立案																				2
◎指揮統制																				0
◎復旧・復興																				2
◎被災者支援																				3
◎応急活動・資源管理																				2
◎警備避難																				1
◎災害への備え																				1
◎防災意識																				3
修了者通し番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20